

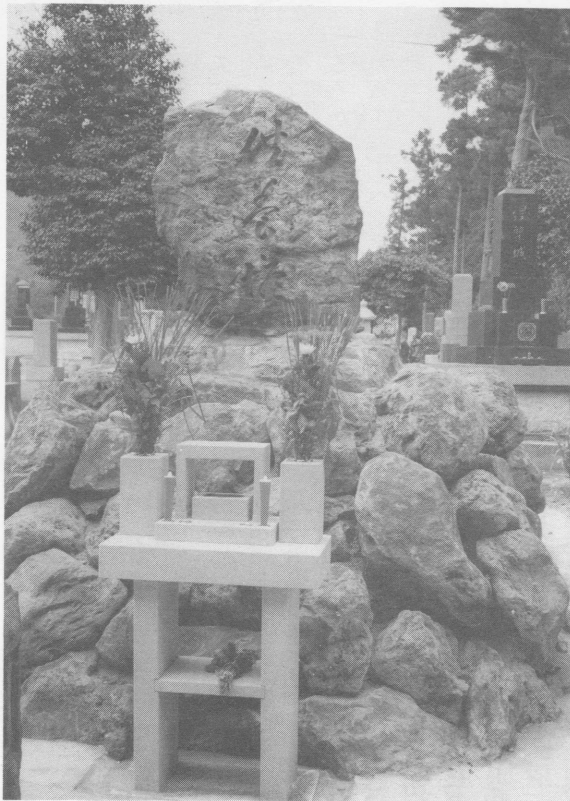
廣福寺だより

18号

無縁「供養塔」改修工事が竣工

彼岸の中日に 現地で落慶法要勤まる

当寺旧墓地の無縁仏の供養塔改修工事は順調に進められ七月末までにはほぼ竣工、八月十三日お盆のお墓参りには新装成った供養塔にお参りすることができました。工事は昭和十年五月建立当時の塔石と台石はそのまま原形を残し、基礎工事は鉄筋コンクリートで深く掘り下げ堅固に固め、その周辺は塔石の自然の風情を保つ調和を考へ鳥海石（秋田石）を積み上げコンクリートで補強しました。正面にはミカゲ石（宝光石）でお花立て、ローソク立などお参りできる台を設け、背面には同じ石で納骨が容易にできる扉を設けました。



また建立当初と改修時の銘板を埋め込み、黒ミカゲ石に「平成三年七月改修、門信徒一同発起人、営保」と刻んでももらいました。

彼岸の中

日の九月二十三日は彼岸会と無縁法要を併せ勤修ののち、現地で改修工事の落慶法要をねんごろに勤め、多くの方々からお参りをしていただきました。ありがとうございました。

工事費は、基礎工事（施工小林組）貳拾七万八千壹百円、石組み工事（施工武石石材工務店）九拾四万七千六百円、計壹百貳拾貳万五千七百円となりました。

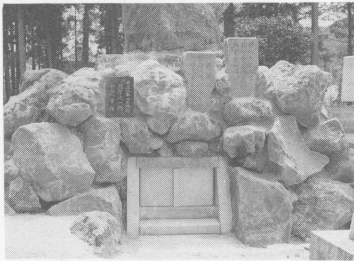
なおご懇志は当寺の墓地に墓所をおもちの方々はもとより広く趣旨にご賛同の有縁の方々から壹百四万七千円（十月現在で）をお寄せいただきました。無縁仏の供養塔に寄せられたご懇念まことにありがたく厚く御礼を申し上げます。募財状況につきましては次頁にご報告を申し上げます。



信心の智慧なかりせば

経済大国といわれお金が生活のものさしになってきた。知識中心で智慧がなくなっている。幼稚園の子どもにお婆ちゃんが一番やさそうなユリの花を切っあげ、「一生懸命咲こうとしている、命があるんだよ」と教える。ところがそのお母ちゃんが「大事にな、これスーパーへいくと百五十円するんや」と。価値観の相違、お金があつて心がない。幼稚園で大きくなったらどんな色の花が咲くのかと心ときめかす子ども、ジョロで水をやり花が咲かなかつたら損やという子どもここにも違いが見える。如来さまに手を合わす後姿に子どもは育てられていく。寺は私を照らしてもらう所、私に出遇い私を知らしてもらう所、私が悪かったおかげさまでございましたと目ざめ、気付かしていただく信心の智慧。道元禪師は眼横鼻直といわれた。眼は横に、鼻は縦に真直ぐに。アタリマエのことがありがたいと頭が下がるのが南無阿弥仏のナムということ。信心の智慧のはたらきに生きる人には、一切が「お与えさま」と頂けてくる。

《本山差向御布教から》



写真上は供養塔背面

供養塔懇志

一金貳拾万円 住職

柏原恵信、東京 柏原

恵行、一金壹拾万円 千葉 菅保（発起人）

和納 広沢和夫、燕 大谷統司、一金五万円

吉田 三上リツ（シズ・ミヨ）、一金参万

円 群馬 白田光夫、東京 笠原吉五郎、坊

守 柏原朝子、一金貳万円 麓地区世話方一

同（山岸義正、中村守、木村三千雄、武石金

衛）、吉田 武石石材工務店、一金壹万円

吉田 本間只雄、神奈川 建入凡夫、千葉

丸山国男、寺泊 島田多三之助、東京 武石

福栄、横浜 木村重二、麓二区 林部嘉之助

仙台 建入照子、福岡

今井健、一金五千元

麓一区 大谷ギン、

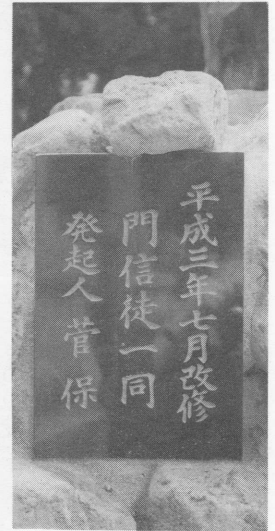
吉田 狩野一雄、寺泊

島田一三雄、麓二区

武石貞吉、平岡清也

中村マス、広沢茂左衛

門、吉田 田村弘。



平成三年七月改修
門信徒一同
発起人菅保

これからの寺の行事

11月7日	午前 10 時	報 恩 講
	午後 7 時	〃
11月8日	午前 10 時	〃
12月31日	午後 11 時半	除 夜 の 鐘
1月1日～3日		修 正 会
3月9日	午前 10 時	本山御布教講
		梵 鐘 講 会
3月15日	午前 10 時	涅槃 会
3月18、21、24日		彼岸 会

皆様お誘い合わせてお参り下さい。

一金参千元 麓二区 平岡清助、武石多右衛門、林部衛、麓一区 武石金五郎、山崎 松居金治、一金貳千元 弥彦 本多哲夫、麓二区 山岸惣吉、麓一区 五十嵐惣一、本多治郎右衛門、渡辺権右衛門、鈴木孝、田上 阿部丈美、一金壹千元 麓一区 武石丈助、武石和助、本多清兵衛、本多清左衛門、武石定吉、鈴木靖夫、鈴木嘉右衛門、麓二区 武石ヒモ（敬称略）

聞法会例会第百七十回記念仏教講演会

阿弥陀如来像守護行動

横浜市立大講師 奈倉哲三先生

廃仏への動き 明治2年4月、下越蒲原地方に越後府の神仏分離令が下され、28、29日と弥彦神社臨時大祓が仏教色を排除して執行された。そこでは「僧尼穢雑の徒一切参拝禁止の事」など仏教への敵意が露骨に示され、これが次の弥彦神社本地仏阿弥陀如来像焼却



命令の事実上の前触れであった。

本地仏焼却命令出る この年6月12日、越後府知事壬生基修は弥彦神社神宮寺兼帯真言院宛に本地仏阿弥陀如来像を焼却せよという命令を主文とする神仏分離令を下した。所轄の出雲崎民生局でもさすがにためらったのか焼却命令を伝えたのは25日で、真言院快寿は驚きの余り放心状態であった。翌26、27日井田村庄屋渡辺五左衛門がこれを見かね矢作村法円寺、井田村照瑞寺、国上村国上寺と同道快寿と出雲崎民生局に焼却の取止めを嘆願したが即刻却下された。

守護行動起こり焼却中止となる 却下された時点から真宗末寺門徒の必死の守護行動が展開される。照瑞寺日野智厚は行動を蒲原一帯の門末に広げ与板藩に嘆願の添え書を依頼した。29日五左衛門は本派与板別院に飛札を届け、すぐに出向いて間に立ってほしいと依頼、西本願寺の使僧、願成寺礼厳（与謝野鉄幹の養父）は民生局宛の口上書をしたため使僧の知恩寺とともに弥彦に出向いた。29日昼ごろ出雲崎から焼却執行のための役人が弥彦へ向かう。弥彦神社に通ずる麓村の路上で出迎えたのは照瑞寺日野知厚・上須頃西照寺原大蔵を惣代とする十八カ寺の僧侶で、焼却中止の嘆願書と与板藩主井伊直安の添え書を提出、弥彦まで3キロの道には「村々家ごと老若男女五人十人づつ集まり居り候」という一

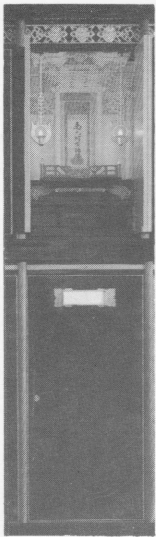
揆状態であった。総出の門徒らの激しい抗議をくぐり抜け弥彦に着くと願成寺と知恩寺が口上書を手渡しして焼却中止を申し入れたが焼却使神戸須磨之丞ら出役は神主と真言院に焼却を命じた。ところが神主の方から30日の大祓を控え7月1日まで焼却を延期したいと申し出があった。実は僧侶の中には「身命に替り候ても飽迄嘆願致したき覚悟」の者もいるという必死の抵抗ぶりを知らされ、さすがの検使も万一の事態となつてはと焼却を断念仏像を出雲崎に引き揚げ7月3日越後府へ報告と同一書を提出した。事態を知った越後府は、自らの面目を立てるため焼却命令はもともなかったものとしてしまった。こうして阿弥陀如来像は守られたのである。それは弥陀信仰に篤い真宗門末の勝利であり、神道国教化を押し進めようとした維新政府の路線の敗北であった。

阿弥陀如来像のその後 同年11月出雲崎から国上寺へ移され、その後曾根の金剛寺、石瀬の青竜寺を経て明治29年に再建された宝光院の阿弥陀堂内に安置され現在に至っている。以上は7月20日、聞法会主催第3回仏教文化講演会の講話の一部を要約したものです。毎年このようなイベントを企画していきたいと考えております。聞法会では毎月20日の例会で声明（お経）の練習とご和讃の講話を聞いております。お気軽にご参加下さい。✓



本山では京都東山の仏光寺本廟に予想図のような立体的納骨施設「光寿堂」の建設が進められています。御開山親鸞聖人の御廟所の聖地に「俱会一処」(ともに一処にあう)のご縁を結ぶ納骨所です。平成五年四月完工を目標に工事が進められ八月には使用開始の見通しで、納骨部分には最高二四〇体の骨壺が収納できます。当寺では篤信者の御寄進をいただき普通区画一基の申し込みをすませました。使用開始の時点で詳細についてお知らせいたします。

写真左は仏壇付納骨所、普通区画



御寄進

次のような御寄進を頂きました。御懇念まことにありがたく厚く

御礼を申し上げます。

▼仏光寺本廟光寿堂建設特別懇志

一金五百万円也

▼光寿堂仏壇付納骨所普通区画造営懇志

一金壹百七拾万円也

▼おとき用飯台(集会用兼用和机)四十脚

燕市 大谷 統司 殿

当寺世話

方で本山参
与を務めら
れている大
谷統司さん
から光寿堂
建設のため
に本山へ特
別懇志を上
納頂きました。
また当
寺門徒の光
寿堂納骨の
ために普通
区画一基の
造営懇志を
本山へ上納
頂きました。

新潟県西蒲原郡弥彦村大字麓6590 電話0256(94)2437 印刷 西蒲中央印刷(株)

おとき用飯台は勤金予算に計上されましたが予算の執行をまたずに、いち早く御寄進を頂き春の彼岸会のおときに間に合い、お参りの皆さんから喜んで頂きました。教区の会議や聞法会の例会、習字教室にも巾広く使わせて頂いております。

▼書院姿見、お手洗防水鏡三面

一金四万七千五百円也

東京都 松宮 信一 殿

「鏡は己が心を映し、それを見ることにより仏心が生じる」との主旨から書院に姿見を一台(写真右)とお手洗防水鏡三面(写真)を御寄進頂きました。

